

笑顔大好き

発行者：常井洋治
〒319-0205 笠間市押辺1745
TEL.0299-45-6818
FAX.0299-45-0818



▲いばらき自民党「茨城縦貫幹線道路道祖神峠トンネル整備促進期成同盟」の会長として、メンバーの議員とともに、伊藤高県土木部長(写真中央)、堀江英夫県営業戦略部長にトンネル実現の要望書を提出しました。何としても早期に実現したい思いでいっぱいです。皆様のご理解とご協力をお願いします。(令和元年8月30日)

燃える郷土愛。全力投球!!



▲台風第19号により、久慈川に架かる水郡線の橋脚、橋げたが流された。大子町内にて。(R1.10.17)

皆様には常日頃から私の議会活動に対し、温かいご声援を賜り厚くお礼申し上げます。
台風第15号及び第19号で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。また、被災された多くの方々にお見舞い申し上げます。
この度の台風は、県内各地に甚大な被害をもたらしました。想定を超える記録的な大雨により、那珂川や久慈川など多くの河川で堤防の決壊や越水が発生するなど、改めて、インフラや河川整備の重要性を痛感いたしました。

私は、これまで涸沼川をはじめ、この笠間地域の河川の改修や浚渫などに力を注いでまいりました。しかしながら、昨今は、「気候変動」を超えた「気候危機」という言葉が使われ始めるなど、これからは地球温暖化の進行により、一層深刻な状況が予想されますので、災害への備えを十分にしてお客様の安全・安心を確保すべく、皆様とともに手を携えて全力で取り組んでまいります。また、16歳のグレタ・トゥーンベリさんの国連でのスピーチが世界で共感を呼んでいます。地球温暖化防止のために、社会のあり方、生活の仕方を真剣に考えていくことが重要と考えております。

私もこれまで以上に頑張っておりますので、引き続き、皆様のご指導をお願いいたします。

皆様には常日頃から私の議会活動に対し、温かいご声援を賜り厚くお礼申し上げます。

台風第15号及び第19号で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。また、被災された多くの方々にお見舞い申し上げます。

この度の台風は、県内各地に甚大な被害をもたらしました。想定を超える記録的な大雨により、那珂川や久慈川など多くの河川で堤防の決壊や越水が発生するなど、改めて、インフラや河川整備の重要性を痛感いたしました。

私は、これまで涸沼川をはじめ、この笠間地域の河川の改修や浚渫などに力を注いでまいりました。しかしながら、昨今は、「気候変動」を超えた「気候危機」という言葉が使われ始めるなど、これからは地球温暖化の進行により、一層深刻な状況が予想されますので、災害への備えを十分にしてお客様の安全・安心を確保すべく、皆様とともに手を携えて全力で取り組んでまいります。また、16歳のグレタ・トゥーンベリさんの国連でのスピーチが世界で共感を呼んでいます。地球温暖化防止のために、社会のあり方、生活の仕方を真剣に考えていくことが重要と考えております。

私もこれまで以上に頑張っておりますので、引き続き、皆様のご指導をお願いいたします。



茨城県議会議員

常井洋治

台風第19号の笠間市内河川状況 (令和元年10月13日早朝)

令和元年10月12日～13日笠間市を通過した台風第19号は、市内では最大瞬間風速22.5m、総雨量は191.5mmを記録しました。(笠間市の年間平均降雨量は1,360mm。)

▶ 涸沼川の南吉原地区南小学校下は、いつも氾濫する箇所であったが、流れを良くする工事を行った効果で、無事だった。



▶ 涸沼川の橋爪地区は、河川改修工事を進めてきたので、流れがスムーズだった。後方は穴戸橋。



▶ 岩間地区泉の巴川は、台風の際に田んぼが冠水する被害にあつてきたが、常磐線の線路下の掘削実現の効果が出てきめんだった。



※9月議会で予算が補正された河川の箇所…(水戸土木事務所の台風第15号、第19号前の予算)

事項名	河川名	箇所名	R1年度補正後予算(百万円)	事業内容
国庫補助河川改修費	涸沼川	南吉原前後	220	河道掘削
県単独河川防災費	涸沼川	大淵	40	護岸
県単独河川防災費	稻田川	来栖	26	測量・設計
県単独河川防災費	涸沼前川	小原	33	測量・設計

一緒に創ろう! ふるさと

令和元年県議会第3回定例会を終えて

(令和元年8月30日～9月26日、28日間)

笠間市・茨城県の輝く新時代

令和元年第3回定例会は、8月30日から9月26日まで28日間の会期で開かれました。補正予算や条例など43件の議案が可決、同意、承認、採択されました。

令和元年度9月県一般会計補正予算を可決

◎補正予算 **200億28百万円**
◎補正後予算 **1兆1,557億96百万円**

補正予算の基本的な考え方

- ・ 今回の補正予算は、①本県の特性を活かした地方創生・地域産業創造の推進、②地域の医療や福祉の体制強化を支援する取組み、③本県の発展を支える社会資本整備など、早急な対応が求められる政策課題に速やかに対応するために必要な事業を計上した。
 - ・ 今回の補正予算の財源は、国庫支出金や県債等を活用するとともに、震災復興特別交付税を充当し、そのほか、所要の一般財源については、繰越金(1,060百万円)を活用した。
- ※ 私常井洋治は、予算特別委員会委員長として審議を行いました。

補正予算の主な内容

1 地方創生・地域産業創造の推進

○いばらきeスポーツ産業創造プロジェクト事業 (新規) 20百万円

eスポーツの拠点・茨城のブランド化を図るため、国体での大会開催実績を活かし、eスポーツ競技場の整備や人材育成を進め、関連産業を誘致・創出する。

- (1)eスポーツ競技場の整備(8百万円)
- (2)人材育成(12百万円)

- ・ いばらきeスポーツアカデミーの開設
- ・ いばらきeスポーツ大使の委嘱
- ・ いばらきeスポーツ推進協議会の運営

○茨城かんしょトップランナー産地拡大事業 (新規) 360百万円

国内外で需要が拡大している本県産かんしょ(さつま芋)の生産拡大を図るため、農地の確保を促進するとともに、加工業者、輸出業者等とのマッチングを推進する。

- (1)生産農地確保の推進(359百万円)
 - ・ かんしょ農家等に対し荒廃農地等の再生に係る費用を補助(補助率:2/3、上限100千円/10a)
 - ※樹木の抜根が必要な場合には、当該経費の2/3(上限150千円/10a)を加算
 - ・ かんしょ農家に農地(20a以上)を貸し出す農家に対し交付(交付額:定額15千円/10a)
- (2)国内外の加工業者や輸出業者等とのマッチングの推進(1百万円)

2 地域の医療や福祉の体制強化の支援

○地域医療提供体制再構築支援事業 (拡充) 183百万円
病院再編統合に伴う、神栖済生会病院の増築に係る基本

計画等の策定及び筑西地域の旧病院の解体を支援することにより、地域における医療提供体制の再構築を図る。

- 補助率: 1/4(増築分の基本計画等策定経費)
- 補助率: 1/2(旧病院の解体等に係る経費)

○ICT活用による医療体制強化支援事業(拡充) 28百万円
ICTを活用した遠隔医療ネットワークの構築を加速し、医師不足が顕著な鹿行地域へシステム導入経費を支援することで、急性期医療体制の充実強化を図る。

補助率: 10/10、補助基準額: 461万円

3 社会資本の整備

○国補公共事業 **173億36百万円**
地方道路整備事業、国補河川改修事業、流域下水道事業等

○県単公共事業 **13億93百万円**
防災・減災対策事業、地域活性化対策事業等

○偕楽園魅力向上等推進事業(県単公共事業:再掲) (新規) 85百万円

偕楽園本園の有料化に伴い、キャッシュレス決済の導入等必要な体制を整えるとともに、更なる魅力向上等を図り、日本を代表する観光拠点化を目指す。

○道路工事基礎調査事業 **48百万円**
カシマサッカースタジアム周辺等の渋滞対策に係る実証実験・調査等

4 その他

○豚コレラ侵入防止緊急対策事業 (新規) 7億32百万円
豚コレラの感染防止を図るため、イノシシ等野生動物の侵入を防止する防護柵及び防護柵出入口の可動柵を設置する養豚農家に対し支援する。

- ・ 負担割合(想定): 農畜産業振興機構1/2、県1/4、市町村1/8、事業主体1/8
- ・ 補助基準額: 防護柵(10千円/m)

防護柵出入口の可動柵(40千円/箇所)

○みんなに優しい学校施設づくり推進事業 (拡充) 83百万円

生徒の生活環境の改善や災害時の避難所としての機能向上を図るため、県立高校のトイレの洋式化を進める。

○カシマサッカースタジアムサブグラウンド整備事業 (新規) 2億91百万円

東京2020オリンピック・サッカー競技の開催等に向け、カシマサッカースタジアムの隣接地にサブグラウンドを整備する。

▶ 予算特別委員会として審議を進行した。(R1・9・20)



総務企画委員会の質疑要約 (R1.9.13)

- 県有施設等老朽化対策に備え、財政負担等の詳細な検討と基金への積み立てを行うべきだ。
- 県政情報がより一層新聞記事等として取り上げられるよう、報道機関への情報提供の仕方を工夫すべきだ。
- つくばエクスプレス県内延伸について、検討を開始すべきだ。

【総務部】

常井委員 これから先、高度経済成長期に整備した県有施設、道路、橋梁等のインフラ施設が老朽化し更新期を迎える。更新、修繕、メンテナンス費用の増大が見込まれる中、計画的な維持管理や財政負担の調整が大きな課題となるが、今後の方針と想定される財政負担の金額は。

菅谷管財課長 県では、平成27年3月に茨城県公共施設等総合管理計画を策定しており、計画的な修繕による施設の長寿命化に取り組み、財政負担の軽減や平準化を図ることとしている。計画策定時に、今後60年間の費用を総務省基準により試算したところ、建物系の施設については、概算で年間300億円程度であったが、非常に粗い試算であることから、現在進めている個別の施設計画の策定作業の中で所要額を精査していきたい。

常井委員 非常に莫大な財政負担の試算であるが、人口減少が進み、行政需要の縮小なども想定される中、県と民間の役割分担や施設のスクラップ等、より詳細な検討を行っていくべきだと思うがどうか。

菅谷管財課長 委員ご指摘のとおりであり、人口減少など様々な状況を踏まえながら、県の保有資産の適正化や計画的な修繕による長寿命化により、財政負担の縮減をどれだけできるかということこれからやっていきたい。

常井委員 長寿命化等の老朽化対策について、財源確保の方針は。

吉富財政課長 年間300億円を今後圧縮していくにしても、一般財源だけで対応していくのは非常に困難である。国では、令和3年度までの期間について、長寿命化に充てられ、後年度の元利償還金に対して30%の交付税措置のある地方債（公共施設等適正管理推進事業債）を用意していることから、この制度を活用するとともに、国へ期間の延長を要望しながら、その財源を確保して対応していきたい。

常井委員 県の一般財源基金は、一時50億円まで減少し、現在は650億円程度まで回復している一方で、余剰金の基金への積み立ては、国から厳しい目を向けられている。今後の施設の長寿命化等に備え、正当なものとして認めもらう努力をしつつ、基金への積み立てを行うべきと思うがどうか。

吉富財政課長 一般財源基金のほかに公共施設長寿命化等推進基金として70億円ほど積み立てしているところだが、委員ご指摘のとおり、起債だけに頼らず、今後も節約等に努めながら基金を確保していき、今後の長寿命化対策等に備えていきたい。

常井委員 茨城県は6年連続魅力度最下位という中で、県政の状況等をタイムリーに県民に伝えることは、魅力度

の前提となる県民の郷土愛や県民の誇りを育てていく上で非常に重要であり、そういう観点から新聞やテレビの効果は極めて大きいものである。

そのような中、県民一人一人と県政の密着度を育てていくには、報道・広聴課はスポークスマンとしての役割が非常に重要である。新聞記事やテレビニュースに取り上げられやすい仕組みとするなど、報道機関への情報提供の仕方にも工夫が必要と考えるが、現在の対応状況は。

川股報道・広聴課長 報道機関には、知事の定例記者会見や記者クラブでの部課長等による記者レクのほか、日々の資料提供という形で情報を伝えている。委員ご指摘のとおり、県政の状況等を県民にいかにか知ってもらえるかが最大の課題であることから、報道機関へのより効果的な情報提供を実現するため、職員向けのマニュアルを見直し、今般、新たに報道マニュアルを策定したところである。策定後は、新聞への掲載率が10%程度向上したところであるが、今後も課題意識を持ち工夫を重ねながら取り組んでいきたい。

常井委員 報道機関を活用できていない部分があるとなれば、非常にもったいないことである。知事定例記者会見後の担当者による報道機関への丁寧なフォローなど、分かりやすくしていくことや、現地に赴いてもらい直接見てもらうなど、工夫したやり方は色々ある。

また、全国紙の紙面2面全てを茨城版とし、内容を充実させてもらうようにしていくことが、県の広報体制のあるべき姿だと思う。そして、全職員が県民に向けたスポークスマンという意識を持ち、報道対応をしていけるような体制づくりを進めていってもらいたい。



▲総務企画委員会での質疑。執行部は、先行してタブレット使用を開始。(R1.9.17)

【政策企画部】

常井委員 県総合計画の政策20「活力を生むインフラと住み続けたいくなるまち」の中で、つくばエクスプレスの県内延伸や茨城縦貫幹線道路の整備に向けた検討を進めるとしている。これはつくばエクスプレスの県内延伸を計画期間の4年間の中で検討を進めるものとして計画を策定しているということか。

池田計画推進課長 県総合計画の中の基本計画は、4年間という計画期間を定めており、基本計画に掲げている政策は、4年間の中で取り組むものである。

常井委員 一方、つくばエクスプレスは、県総合計画の2050年頃の茨城の姿において、県内延伸の4方向として、

筑波山、水戸、茨城空港、土浦を掲げている。大井川県政が始まって2年、計画策定から間もなく1年経過するが、つくばエクスプレスの県内延伸について、現時点での検討状況は。

久保田交通政策課長 つくばエクスプレスの県内延伸は、今後の県勢発展のためにも非常に重要なテーマであると考えている。県では、交流ネットワークの更なる充実という観点から、県内延伸の実現に向けて、国へ支援の要望を行っている。

一方、県内延伸の実現には、資金や採算性をどう確保するのか等の問題もあるため、他の事例なども参考にしながら、資金調達や整備方法など、鉄道整備に必要な基本的なところから整理をしている。

常井委員 検討に当たっては、柱となる検討事項として、国との関係、計画路線としての位置づけ、費用の試算、整備手法、ルート選定などがあると思うが、その他に柱となる検討事項はあるか。

久保田交通政策課長 県総合計画の中で示した4つの延伸イメージの選定のほか、整備の必要性や効果、資金調達の方法、採算性の確保などを検討していかなければならないと考えている。

常井委員 大事なのは、4路線をどう1本に絞るかであり、どの路線であれば整備効果が出るのかを、先ほど言った検討事項を明確にして、いち早く整理していく必要がある。そうでないと4年間の中で検討は進んでいかないと思うが。

森住交通局長 委員ご指摘のとおり、ルート選定も大事である。今年の秋、取り組みも実際に始める。つくばと水戸を結ぶ高速バスの実証実験を始める。人の流れをどう作れるか、これはこれから検討していく上で、非常に大事な視点だと思っている。実際この高速バスの結果も踏まえながら、人の流れをどう作り出していくのかを検討していきたい。

とこい洋治が 見つけた 地元の 元気!



▲茨城国体のデモンストレーション競技としての合気道は、岩間地区の合気神社境内で開催され、約2,000人の方が参加。大会長としてあいさつ。(R1.8月)



▲茨城国体の総合開会式に本県選手団と同じユニフォーム姿で出席。令和初の国体で新しく即位された天皇・皇后両陛下をお迎えした。(R1.9月)



▲茨城国体大会役員懇談会で新しく就任した橋本聖子東京オリンピック・パラリンピック担当大臣と。(R1.9月)



▲県いじめの根絶を目指す条例(議員提案)の制定に向けて、教育庁関係者と最後の詰め勉強会。大人の責任を果たしたい思いで挑んでいる。(R1.9月)



▲いばらき自民党政調会で積極的に意見を開陳している。誰よりも数多く出席してきた自負がある。(R1.9月)



▲笠間の新栗まつりのPRで大井川知事を訪れた。栗生産者の小沢一男さん、柴田卓哉さんらとともに。(R1.9月)



▲市内小学校の運動会にて。緊張の一瞬、良いスタートが切れたかな。(R1.9月)



▲市内各地区での敬老会には、元気な皆さんが出席していた。健康寿命を伸ばして、人生百年時代のご長寿を願った。(R1.9月)



▲笠間市野球連盟会長杯争奪中学校新人野球大会で青木仁会長に選手宣誓。1、2年生で、新しいチームづくりを進めて欲しい。(R1.8月)



▲茨城国体を記念してのアームレスリング大会(磯野武夫実行委員長)が開催された。初めて障がい者の大会も開催された。(R1.9月)



▲笠間市ふれあいスポーツの集いでは、市内各施設の障がい者の皆さんがスポーツで汗を流しながら、園児らと交流した。まずは、念入りに準備運動、結構きつかった。(R1.10月)